

しまの風

発行所 杵藤農林事務所杵島農業改良普及センター
佐賀県杵島郡白石町大字東郷2546-2
TEL0952-84-3625 FAX0952-84-6425
E-mail : kitounourin@pref.saga.lg.jp
URL :http://www.pref.saga.lg.jp/list02464.html

令和3年2月

第52号

21世紀の主役たち



コロナに負けない！
若い農家の熱い
思いがふれる！！

「令和2年度TK4HアグリマネージメントCLUB冬のつどい」が1月28日に開催され、クラブ員4名が熱い発表を繰り広げました。

「農業青年の提言」では、3名の発表があり、最優秀賞に輝いた武友会の澤井翔平さんは、茶園の高樹齢化、乗用機械による土の硬化などの課題に対して、改植と茶の根元を選定する大刈に取り組むとともに、籾殻堆肥の投入をすることで土壌を柔らかくすることができたことについて発表されました。今後は、需要の変化による売上の低迷に対して、冷茶用ティーバックなどの製品化や独自パッケージを開発していきたいとのことでした。

また、優秀賞には、就農後、初めてのレンコン栽培で肥料設計や品種の見直しに取り組まれた辻田幸介さん。退職後、実家の農業を手伝いながら、規模拡大に取り組む中でやめていく人の農地を守っていきたくと熱く語った記井健太さんが選ばれました。

「地域発展プロジェクト」では、白石青年実業会の野口隼汰さんが大玉化や腐敗病の発生に悩まされる白石タマネギの再興を図る取り組みについて発表し、最優秀賞に輝きました。クラブ員とともに現状と課題を共有し、白石青年実業会として減肥試験に取り組んだ結果、大玉化や腐敗率が低下したこと、コスト低減と収益性のアップにつながる成果が出ています。今後は減肥量をさらに追求した試験を実施されることから、地域に適したタマネギ栽培の方向性を示す一助となることが期待されます。

本年は、新型コロナウイルスの影響で農産物の打撃を受けた内容も発表に盛り込まれ、出席者全員がその苦労や厳しさに共感しました。

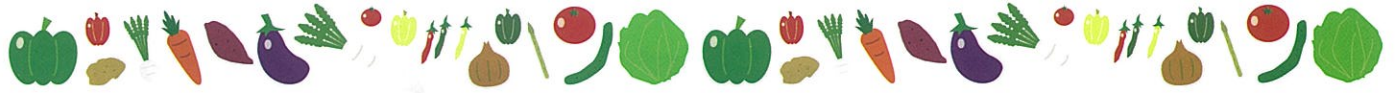
笠原農業士からは、「コロナで四苦八苦だが、若い力で共に頑張りましょう！」と力強い激励の言葉をいただき、会場全体の士気が大きく高まる会となりました。



農業青年の提言 最優秀賞 澤井翔平さん



地域発展プロジェクト 最優秀賞 野口隼汰さん



情報提供 園芸生産888億円推進運動の展開状況

これで楽々タマネギづくり

「玉葱は重くてしんどい。」そういった生産者の声に対応すべく、タマネギ拾い上げから貯蔵までを大型鉄コンテナを用いて行う体系の確立に取り組んでいます。5月29日に、白石町内で3台のピッカーによる収穫試験を行い、大型コンテナによる貯蔵試験を7月まで行いました。貯蔵中は強制通風するのですが、コンテナによる差もなく品質面での課題も解決できました。さらに圃場での作業性等の評価・検討を行い、現地への導入に向けて関係機関一体となり取り組んでいきます。

トレーニングファーム研修生が奮闘中!!

イチゴ

2年目を迎えた白石町のイチゴトレーニングファームでは、現在1期生5名、2期生3名が収穫作業に取り組んでいます。

令和2年産は生育の遅れが影響し、収穫開始も昨年より遅くなりましたが、大玉で真っ赤な「いちごさん」が実っています。令和3年より営農を開始する1期生。それぞれのハウス建設も着々とすすんでおり、9月の定植へ向け準備万端です。

キュウリ

本年5月に武雄市にあるキュウリトレーニングファーム(TF)を卒業した4組5名の研修生が、武雄市内で営農を開始しました。TFで身に着けた栽培技術やキュウリの状態に合わせた環境制御技術を駆使しながら、県内でもトップクラスの反収である40tを目指して頑張られています。



さが園芸888運動

チャレンジ! 活気あふれるさが園芸へ



おいしい高菜を目指して

中若木では、その土地ならではの特徴を活かした営農確立を目指そうと、3年前から高菜栽培を始めました。気象の影響もあつてなかなか思うような収量が得られなかったのですが、今年もあきらめることなくチャレンジ。集落に野菜班を設置し、種まきや定植なども協力し合っており取り組まれました。「生育はこれまで一番順調で、収穫が楽しみです。これからも集落一丸となって取り組めます!」と手ごたえを感じられています。

気候変動にも負けないミカンづくり

甘くて美味しい温州ミカンづくりにおいて、最も課題となるのが水分コントロールです。

そこで、気候変動長雨にも左右されることなく、高品質果実を生産するための栽培技術として杵藤地区では、「根域制限栽培」の面積が拡大しています。この技術は、防根シートとブロックで枠組みした中の培土にミカンの樹を定植し、シートマルチで被覆することで水分コントロールが容易となる技術です。今年産の露地栽培では大玉傾向で果実品質が伸び悩んだ年となりましたが、当技術の導入圃場では平均糖度13.0以上の美味しいミカンが生産できました。販売単価も好調です。



佐賀農業賞 受賞者紹介

全国トップレベルの 高品質切り花生産技術の 伝承者



武富氏は、花き栽培を始めて50年のレジェンドです。これまで50種類以上の花をつくりこなした経験があり、培われた技術力はピカイチで、全国の有名花市場から出荷を要望されるほどです。特に、スイートピーの技術確立は草分け的存在で、今では大産地となった宮崎県から大型バスでの視察を何度も受け入れたほどです。

現在は、スイートピー、トルコギキョウ、真美白花（シンテツポウユリ）、プブレリウムを栽培され、それぞれの研究会で熱心の後輩たちに技術伝承する姿がみられます。地域を超えて頼られる存在であり、今後は武富氏のもとから巣立った後継者たちの活躍にも期待が大きいところです。

先進的農業経営者の部 **優秀賞**
江北町 **武富政敏・由美子氏**

大規模土地利用型農業 および施設花き経営の両立



白浜氏は、30haに及ぶ農地で土地利用型農業を営みながら1haの施設で花きを栽培されています。

土地利用型農業のこだわりは、美味しく安心安全な米づくりです。全国コンクール特別優秀賞による「美味しさ」の保証、県の特別栽培認証制度による「安全性」の保証を武器にブランドを構築されています。次に、花き栽培のこだわりは、積極的に市場や花屋のニーズを取り入れることで、周年切れ目ない出荷やオリジナル品種の育成に取り組んでいます。

近隣の同年代の仲間と切磋琢磨する姿や異業種交流にも積極的な姿は、今後の農業経営モデルとして地域への貢献も高いと期待しています。

若い農業経営者の部 **最優秀賞**
九州農政局長賞
白石町 **白浜学・初美氏**

農事組合法人西梅野ファームは、「集落内の全戸で地域の農地を守り、楽しめる農村づくり」を理念に平成29年に法人化されました。そして、最も重要視されているのが、「楽しく農業経営ができるための話し合う場づくり」です。設立以降、構成員全員が集まる話合いが、毎月10日に行われています。この取組みにより、設立後地域から離農者は1人もおらず、耕作放棄防止にも大きく貢献されています。

地域を集落全員で守り 楽しめる農村づくりを目指して



また、新しいチャレンジにも積極的に取り組まれています。平成29年から、大豆集荷業者や佐賀大学等と連携した大豆新品种の産地確立にむけた取り組みはその一つです。ファームの組織力強化にむけた手法と成果は、他地域のモデルへの波及性が高いものであり、中山間のモデル組織として、今後益々活躍が期待されます。

地域農業活性化の部 **優秀賞**
武雄市 農事組合法人西梅野ファーム

地域情報コーナー



経営研修



こねぎ研修

「育成塾」へいらっしやう!!

杵島管内は、県内でも新規就農者が最も多い地域で、今年度も41名の新しい仲間（新規就農者）が加わりました。そこで、普及センターでは就農されて数年程度経過された方や、今年仲間になったばかりの方など総勢60名を対象とした「青年農業者等育成塾」を開催しました。

育成塾は全部で9講座を用意。経営や土づくりなどの基礎講座と、自分の経営品目について学べる選択講座とし、就農後必要不可欠な知識や考え方とともに、専門的な知識が習得できる内容としました。今後の営農計画（経営方針）を一緒に作成するなど実践に即した実習も行いました。

参加された受講者からは、「先輩から具体的なアドバイスが受けられたり、他の園地を見たりすることで、自分の経営を見つめ直すいい機会がえられた。」「基礎的な部分が重要なことだということを学べた。」「新たな仲間づくりになってよかった。」等の意見がありました。

もちろん次年度も開催します。新規就農者の方々の参加を心からお待ちしています。



スイートピー研究会 「佐賀ラテイルス研究会」誕生

県内のスイートピー栽培は杵藤地域に集中しており、品質の高さで全国的に有名な産地です。ここ数年、生産者全員が集まって、室内研修会や現地研修会、先進地視察を行い、技術研鑽に努めてきました。

今年度、生産者全員で「佐賀ラテイルス研究会」を立ち上げました。研究会名はスイートピーの学名に由来しており、「情熱的」という意味も含まれています。オリジナル品種の育成に取り組む生産者、品質にこだわる生産者、輸出に取り組む生産者で、研修会は大いに盛り上がり、話は尽きません。情熱的な生産者を普及センターも支援することで、今後、佐賀のオリジナルスイートピーを世界へ発信していきます！